

Observation of Red-footed Booby *Sula sula* on the Ogasawara Line

Yukio Higuchi¹, Shin-ichi Hanawa², and Yozo Tsukamoto³

A Red-footed Booby *Sula sula* was observed from a ship on the Ogasawara Line on 3 September 1979. The bird was found in the evening at 28°06'N and 141°49'E, and took rest on a mast of the ship. Next morning the bird flew away at 32°34'N and 140°25'E. This species is rare in Japan.

1. 4—3—23 Tokiwa, Yokkaichi-shi 510.
2. Wild Bird Society of Japan, Aoyama Flower Building, 1—1—4 Shibuya, Shibuya-ku, Tokyo 150.

1982年の台風19号により迷行した野鳥

澤田佳長¹

去る1982年9月24日から25日にかけて、台風19号は四国を直撃し、台風の大きさは宿毛測候所で25日午後0時過ぎ、気圧は978.1mb、最大風速東の風15.0mを記録、高知県西部地方にかなりの被害をもたらした。

一方、この台風19号は日本で記録の少ない鳥たちを、県西部地方に運んだのである。台風通過後、9月25日午後より調査開始、10月2日まで、どんな鳥が台風によって迷行したかを調べる目的で調査をおこなった。これはその報告である。

調査地と調査方法

調査地は宿毛市・中村市、幡多郡大方町である。これらの地域の水田地帯および海岸を重点的に調査した。なお調査中に土佐清水市・大月町・土佐佐賀町から鳥の保護および死体発見の報告を得た。

調査結果

この調査の結果、表1に示したように、4科9種の鳥を観察確認することができた。この中には、四国あるいは高知では稀な鳥6種が含まれていた(表1の上から6種)。

○アジサシ類

9月25日午前8時、宿毛市山奈町の水田上を飛行するアジサシ、ハジロクロハラアジサシの50羽ほどの群を発見した。また同日午前11時30分中村市の中筋川流域を飛行するコアジサシ、ハジロクロハラアジサシを確認、午後2時より大方町早咲、同町千鳥ヶ浜の2地区調査でハジロクロハラアジサシ7羽、アジサシ10羽、および1羽のハシブトアジサシを確認した。

同月26日には宿毛市山奈町、中村市内の水田上を飛行してたものはみられなくなり、大方町千鳥ヶ浜で5羽のハジロクロハラアジサシが見られた。

表1 調査中に出現した鳥類

科	種	場 所
サギ	オオヨシゴイ <i>Ixobrychus eurhythmus</i>	宿毛市
ワシタカ	アカハラダカ <i>Accipiter soloensis</i>	土佐佐賀町
カモメ	ハジロクロハラアジサシ <i>Sterna leucoptera</i>	宿毛市・中村市・大方町
	ハシグロクロハラアジサシ <i>S. nigra</i>	宿毛市・大方町
	クロハラアジサシ <i>S. hybrida</i>	宿毛市
	ハシプトアジサシ <i>S. nilotica</i>	宿毛市・大方町
	アジサシ <i>S. hirundo</i>	土佐清水市
	コアジサシ <i>S. albifrons</i>	中村市・大方町
ツバメ	ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	大方町

同27日、宿毛市宿毛の松田川河口にて、アジサシ類が飛来しているとの連絡があり調査開始。また25日に大方町にて拾得したという連絡があり27日に確認の結果クロハラアジサシであった。翌26日には宿毛市宿毛での拾得の連絡で調査の結果ハジロクロハラアジサシであることを確認した。

松田川河口の現地調査を同月28日におこなった。アジサシ類は河口のノリヒビのクイの上で休息中であった。カウントの結果58羽を確認、クロハラアジサシ17羽、ハジロクロハラアジサシ23羽、ハシグロクロハラアジサシ11羽、アジサシ7羽の4種であった。

同29日午前7時10分より8時30分まで調査したところ、前日より増加し147羽となっていたが、午後にはさらに174羽に増加した。同時にこれほど多数のクロハラアジサシ類が日本で観察されたことは初めてのことと思われる。

同30日の調査では52羽を確認し、そのうちハジロクロハラアジサシが $\frac{2}{3}$ ほどを占めていた。

同10月1日には31羽に減少しており、南下をしているようである。

10月2日、午前10時30分頃まで約30羽ほどの羽数であったとの報告を受けたが、午後1時に現地調査を行ったが6羽のハジロクロハラアジサシしか確認できなかった。おそらく南下したものである。今回の調査で大変貴重な資料を得ることができた。またアジサシ、ハジロクロハラアジサシ、クロハラアジサシ3種の標本も得ることができた。

○アカハラダカ

アカハラダカも台風19号に巻き込まれたものと思う。台風通過後、高知県幡多郡佐賀町荷碓で、体力つきて落下しているのを発見し高知県幡多事務所に持ち込まれ、連絡を受け筆者が確認した。この個体については飼育を試したが2日後に死亡した。

アカハラダカは、朝鮮半島や中国東北部、台湾で繁殖している鳥であるから秋の南下の途中に今回の台風にまき込まれたのであろう。日本ではごくまれな鳥で記録も少なかったが、近年沖縄本島や宮古島での観察記録が増えている。鳥の観察者が増加し、アカハラダカの識別も可能になったためと思われる。

○オオヨシゴイ

オオヨシゴイも台風19号によって運ばれたようである。9月26日宿毛市宿毛で、少し羽をいた

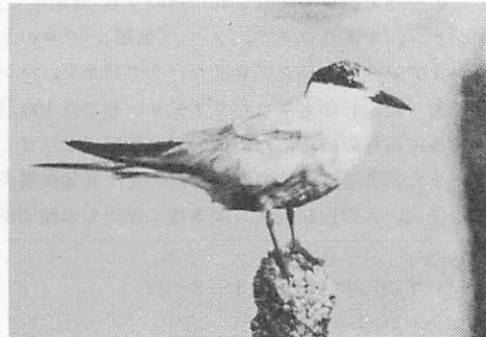


図1 杭上で休むクロハラアジサシ
(1982. 9. 25)

めた1羽のメスが保護された。

10月1日まで、保護飼育をおこなって、体力が回復し元気になったので放鳥した。高知県内ではまれな鳥である。

○ツバメ

普通種ではあるが台風により死亡したものと考えられるので特に記す。

高知県幡多郡大月町小才角漁協市場の岩壁にて10羽の死体を発見した。中に足環を付けたものがあった。

023 JAPAN 43341

高知県幡多事務所より環境庁に報告。

おわりに

この一連の調査で記録された鳥のうち、高知県ですでに確認例のあるものはコアジサシ(繁殖)、アジサシ、オオヨシゴイ、ツバメ(繁殖)、クロハラアジサシ(写真あり夏羽)である。ハジロクロハラアジサシ、ハシブトアジサシ、アカハラダカはこれまで未記録であった。しかもクロハラアジサシ類では100羽を超える大群は珍しい記録である。

最後に鳥種の確認のために大変お世話になりました高野伸二先生に心から謝意を申し上げます。また調査等に御協力をいただいた、高知県幡多事務所林業課山下国見氏、日本野鳥の会々員田中佳氏、大野由起夫氏、岡本雄二郎氏その他関係下さった方々に心から謝意を表わします。

1983年9月7日受理。

1. 〒787 中村市東町3-3-11.

The Birds Observed after Typhoon No. 19 (1982)

Kacho Sawada¹

On 25 September 1982, after typhoon No. 19 passed, some species such as White-winged Black Tern *Sterna leucoptera*, Black Tern *S. nigra*, Whiskered Tern *S. hybrida*, Gull-billed Tern *S. nilotica* were observed along the coast of Kochi Prefecture. These species are rare in Japan.

1. 3-3-11 Higashi-machi, Nakamura-shi 787.

サンカノゴイの鳴声終日調査

菊田一朗¹

サンカノゴイ *Botaurus stellaris* は、本州においては秋冬の候にまれにみられるにすぎないが、北海道では夏鳥または留鳥としてやや多数生息している。繁殖が確認されているところは渡島支庁函館(1874)、胆振支庁苫小牧(1937, 1950)、空知支庁長沼(1930)、釧路支庁釧路(1939)、網走支庁女満別(1939)がある(清棲 1979)。1982年5月4日、苫小牧市ウトナイ沼付近でも安西英明氏によりその存在が確認され、その後も繁殖期を通して記録された。記録された場所はコナラ等の樹木の茂る低山に囲まれた約120haのアシ原で、ヤチハンノキが点在しており、その中